

平成24年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年1月30日

上場取引所 大

上場会社名 燦キャピタルマネージメント株式会社

コード番号 2134 URL <http://www.sun-capitalmanagement.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 前田 健司

問合せ先責任者 (役職名) 経営管理本部 本部長 (氏名) 佐々木 康裕

TEL 06-6205-5611

四半期報告書提出予定日 平成24年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第3四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第3四半期	1,108	28.1	△118	—	△173	—	△129	—
23年3月期第3四半期	865	△19.1	△159	—	△220	—	△308	—

(注) 包括利益 24年3月期第3四半期 △152百万円 (—%) 23年3月期第3四半期 △636百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第3四半期	△2,189.78	—
23年3月期第3四半期	△5,227.96	—

(注) 平成23年3月期第3四半期においては、当社子会社である株式会社グランドホテル松任については投資事業の観点より連結損益計算書上、売上高及び営業費用を純額で表示しておりましたが、平成24年3月期第1四半期より同社についてグループとして中期的な支援態勢をとることとなったため、総額にて表示する方法によっております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第3四半期	7,309	2,758	22.4
23年3月期	8,007	2,689	22.0

(参考) 自己資本 24年3月期第3四半期 1,635百万円 23年3月期 1,764百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	600.00	—	0.00	600.00
24年3月期	—	0.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,047	91.4	410	—	345	—	320	—	5,414.55

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 1社 (社名) スプリング投資事業有限責任組合 、 除外 1社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

24年3月期3Q	59,100 株	23年3月期	59,100 株
----------	----------	--------	----------

② 期末自己株式数

24年3月期3Q	— 株	23年3月期	— 株
----------	-----	--------	-----

③ 期中平均株式数(四半期累計)

24年3月期3Q	59,100 株	23年3月期3Q	59,100 株
----------	----------	----------	----------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見直し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報(その他)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 継続企業の前提に関する注記	9
(4) セグメント情報等	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11
(6) 重要な後発事象	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間における我が国の経済は、東日本大震災の影響による厳しい状況から徐々に持ち直す動きが見られるものの、円高の長期化、EU諸国における経済不安等により、景気の先行きは不透明な状況となっております。

当社グループの主な事業領域である金融・不動産市場では、国内の金融市場は比較的落ち着きを取り戻しつつありますが、ギリシャ問題に端を発したEU諸国の金融情勢の悪化は予断を許さない状況が続いており、その影響は国内の金融・不動産市場の収縮要因となっております。

このような市場環境の下、当社グループは、投資事業として不動産賃貸事業、ゴルフ事業及びホテル事業等、アセットマネジメント事業としてアセットマネジメント業務等、その他の事業として「OSAKA ENTERTAINMENT CITY」構想（以下、「OEC構想」といいます。）に係る開発業務等を行って参りました。

投資事業については、保有不動産からの賃料収入等を安定収益として獲得しつつ、投資案件として開発途中の不動産に投資を行い、収益を獲得しました。ホテル事業においては東日本大震災の影響があったものの、需要は回復しつつあります。アセットマネジメント事業については、運営管理するファンドの管理報酬等を安定収益として獲得しつつ、財務リストラクチャリングに関するコンサルティング業務報酬等の収益を獲得しました。その他の事業については開発業務委託報酬と大型の媒介案件成約により収益を獲得しました。なお、OEC構想につきましては、当社の関連会社である大阪投資マネージメント株式会社が主体となり、大阪府から平成23年3月11日に公表された「万博記念公園南側ゾーン活性化事業者」の公募に当社グループとして正式に参加しておりましたが、最優秀提案者に選定されなかったことを受け、同社を解散することとなりました。これに伴い、関係会社株式評価損を特別損失として計上致しました。

また、投資目的の株式に係る投資有価証券評価損及び投資事業有限責任組合出資に係る投資事業組合運用損を特別損失として計上し、加えて、業務の効率化及びコスト削減を目的とした当社本店の移転費用や固定資産除却損等についても、特別損失として計上致しました。

一方で、保有する投資不動産の売却に伴い、固定資産売却益を特別利益として計上致しました。その際、借入金の金利上昇リスクをヘッジする目的で締結しておりました金利スワップ契約を中途解約したため、金利スワップ解約損を特別損失として計上致しました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,108百万円（前年同四半期比28.1%増）、営業損失は118百万円（前年同四半期は159百万円の営業損失）、経常損失は173百万円（前年同四半期は220百万円の経常損失）、四半期純損失は129百万円（前年同四半期は308百万円の四半期純損失）となりました。

なお、前第3四半期連結累計期間においては、当社子会社である株式会社グランドホテル松任については投資事業の観点より連結損益計算書上、売上高及び営業費用を純額で表示しておりましたが、第1四半期連結会計期間より同社についてグループとして中期的な支援態勢をとることとなったため、総額にて表示する方法となっております。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、営業費用の配賦方法を変更しております。セグメント情報の期間比較可能性を確保するために、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報について、営業費用の配賦方法変更後の金額を記載しております。詳細は10ページ(4)「セグメント情報等」をご覧ください。

(投資事業)

投資事業につきましては、当社保有の不動産からの賃料収入、ゴルフ場売上、ホテル売上等の結果により、投資事業の売上高は830百万円(前年同四半期比27.6%増)、セグメント損失(営業損失)は156百万円(前年同四半期は135百万円のセグメント損失(営業損失))となりました。

(アセットマネージメント事業)

アセットマネージメント事業につきましては、アセットマネージメント業務報酬、ファンドからの管理フィー等を計上したこと等の結果により、アセットマネージメント事業の売上高は121百万円(前年同四半期比32.6%減)、セグメント損失(営業損失)は45百万円(前年同四半期は33百万円のセグメント損失(営業損失))となりました。

(その他の事業)

その他の事業につきましては、アドバイザー業務報酬及びOEC構想に係る開発業務報酬等の結果により、その他の事業の売上高は156百万円(前年同四半期比355.6%増)、セグメント利益(営業利益)は65百万円(前年同四半期は16百万円のセグメント損失(営業損失))となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末における総資産につきましては、前連結会計年度末に比べ、697百万円減少し、7,309百万円となりました。この主な要因は、現金及び預金が254百万円増加した一方、投資不動産が818百万円減少したこと等によるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ、767百万円減少し、4,551百万円となりました。その主な要因は、短期借入金(1年内返済予定の長期借入金を含む。)及び長期借入金が761百万円減少したこと等によるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ、69百万円増加し、2,758百万円となりました。その主な要因は、四半期純損失により利益剰余金が129百万円減少した一方、少数株主持分が198百万円増加したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間の業績の状況等を勘案した結果、平成23年8月5日に開示致しました平成24年3月期の連結通期業績予想に変更はございません。

なお、前連結会計年度においては、当社子会社である株式会社グランドホテル松任については連結損益計算書上、売上高及び営業費用を純額で表示しておりましたが、第1四半期連結会計期間より、総額にて表示する方法によっております。

これに伴い、連結業績予想についても、売上高を総額にて表示する方法によっております。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

第3四半期連結会計期間より、新たに設立したスプリング投資事業有限責任組合を連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	216,301	471,192
売掛金(純額)	56,450	76,711
有価証券	200,000	109,000
商品	7,309	8,511
貯蔵品	3,050	3,414
その他	252,455	187,189
流動資産合計	735,568	856,019
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,483,481	1,448,371
その他(純額)	356,083	351,355
有形固定資産合計	1,839,564	1,799,726
無形固定資産		
その他	1,053	890
無形固定資産合計	1,053	890
投資その他の資産		
投資有価証券	966,415	1,063,235
投資不動産(純額)	4,341,136	3,522,641
その他	123,843	67,284
投資その他の資産合計	5,431,395	4,653,161
固定資産合計	7,272,013	6,453,777
資産合計	8,007,581	7,309,796

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	16,360	23,133
短期借入金	72,500	32,500
1年内返済予定の長期借入金	791,704	805,933
未払法人税等	7,416	8,028
その他	163,941	201,487
流動負債合計	1,051,922	1,071,082
固定負債		
長期借入金	3,943,600	3,207,689
負ののれん	270,337	221,775
その他	52,400	50,469
固定負債合計	4,266,338	3,479,934
負債合計	5,318,260	4,551,016
純資産の部		
株主資本		
資本金	866,250	866,250
資本剰余金	731,250	731,250
利益剰余金	167,683	38,267
株主資本合計	1,765,183	1,635,767
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△470	—
その他の包括利益累計額合計	△470	—
少数株主持分	924,607	1,123,012
純資産合計	2,689,321	2,758,780
負債純資産合計	8,007,581	7,309,796

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
売上高	865,403	1,108,673
売上原価	389,267	346,742
売上総利益	476,135	761,930
販売費及び一般管理費	635,625	880,787
営業損失(△)	△159,489	△118,856
営業外収益		
受取利息	1,286	2,471
受取配当金	4,693	3,949
持分法による投資利益	—	3,037
負ののれん償却額	48,562	48,562
その他	8,604	5,402
営業外収益合計	63,147	63,423
営業外費用		
支払利息	100,779	97,330
支払手数料	11,178	1,478
その他	12,394	19,638
営業外費用合計	124,352	118,447
経常損失(△)	△220,695	△173,880
特別利益		
固定資産売却益	10	455,154
還付消費税等	—	8,291
負ののれん発生益	—	25,343
貸倒引当金戻入額	5	—
特別利益合計	16	488,788
特別損失		
固定資産売却損	8,753	354
固定資産除却損	8,766	10,554
投資有価証券評価損	325,703	30,000
関係会社株式評価損	—	205,891
投資事業組合運用損	12,623	7,980
貸倒引当金繰入額	142,434	—
金利スワップ解約損	—	88,710
事務所移転費用	9,382	7,190
その他	—	352
特別損失合計	507,663	351,033
税金等調整前四半期純損失(△)	△728,342	△36,125
法人税、住民税及び事業税	4,487	5,361
法人税等調整額	△95,954	111,180
法人税等合計	△91,467	116,541
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△636,874	△152,667
少数株主損失(△)	△327,902	△23,251
四半期純損失(△)	△308,972	△129,415

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△636,874	△152,667
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	490	470
その他の包括利益合計	490	470
四半期包括利益	△636,384	△152,197
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△308,482	△128,945
少数株主に係る四半期包括利益	△327,902	△23,251

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	投資事業	アセット マネージメント 事業	その他の事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	651,027	180,032	34,343	865,403	—	865,403
セグメント間の内部売上高又は振替高	7,612	22,149	—	29,761	△ 29,761	—
計	658,640	202,181	34,343	895,165	△ 29,761	865,403
セグメント利益又は損失(△)	△ 135,152	△ 33,790	△ 16,860	△ 185,803	26,314	△ 159,489

- (注) 1 セグメント利益又は損失の調整額26,314千円は、セグメント間取引消去額であります。
2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	投資事業	アセット マネージメント 事業	その他の事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	830,877	121,312	156,482	1,108,673	—	1,108,673
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	3,740	450	4,190	△ 4,190	—
計	830,877	125,052	156,932	1,112,863	△ 4,190	1,108,673
セグメント利益又は損失(△)	△ 156,918	△ 45,361	65,764	△ 136,515	17,659	△ 118,856

- (注) 1 セグメント利益又は損失の調整額17,659千円は、セグメント間取引消去額であります。
2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。
3 前第3四半期連結累計期間においては、当社子会社である株式会社グランドホテル松任について投資事業の観点より連結損益計算書上、売上高及び営業費用を純額で表示しておりましたが、第1四半期連結会計期間より同社についてグループとして中期的な支援態勢をとることとなったため、総額にて表示する方法となっております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度まで、報告セグメントに帰属しない一般管理費を、配賦不能費用として調整額に含めておりましたが、セグメント別の損益をより明確に表示するために、第1四半期連結会計期間より、それぞれの費用の性質に応じ、合理的な配賦基準に基づき、各セグメントへ配賦することに変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報も変更後の配賦基準で表示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(重要な負ののれん発生益)

「投資事業」セグメントにおいて、その他の関係会社有価証券を取得したことにより負ののれん25,343千円が発生し、当第3四半期連結累計期間において特別利益（負ののれん発生益）を計上しております。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) 重要な後発事象

該当事項はありません。